甲州小藩川

中

no 2308

恵をとゝこゝ二人ゐ以つゝ恵ひ深き反抜抜く恵ひ
屋風の内より出く交うとゝあつて出ゐ者れば
更へより人ゝを見ふ〳〵と隅くを尋ねうくと
戸紙障子内ゐ見ひ恵今度ハ娘し梅く恵ば
ゝのうゝ見ひ下女ほうぐたつて居ても知
ま恵ゐ宮家出ゐ陸手きうと云ひ人なも
屋理書濡れ中へゝ見ひ居うゝ出とて下女
とゐて入てたつひよ皆く第ひ名う波見と入
変う尋恵る内又梅く恵ゐ弱る者よゐくうと
交くく尋ゐ下女ハ多の新屋の樋の新ようづ

くまりて居こうは計敬なまくは案紙入れをを
隠まくるを亜ゆり後るを彼の下安八十九の二十乃
目ゆくを白くゆ〜肥肉ゆくふちくをを
生まを分れうれは横を乗湿度のむあるふを
一を云の雲おをりてり分出くを後を用うをいぶを
分は見はをうう横を乗なりのをうしまくを云をを
撫まをくあまりて居ををを横迫を見をくて
入させをば横を乗さるをのゆくたりのをゆそ女乃
腋の下をををくまは見をを乳をを奈をを加〜胸 絡
をゆゆをを〜をは右法ををを〜迫りをふ〜をを

をを法のをゆをまはゆをくをを毛の薄くを
ををる肉絡乗ひをくを先の食指を中ゆひをを
入を〜扶をれはををゆの後はをくを分ををを
旅をゆをををを〜をを〜を〜を〜を

押いるまいらせうとて、さく花分をもちて、くゝ分しハ
流水流まて服とうれおゝ、ぐちゆもくゝおと
ちれ水て及とせんと、戦て御ゝく一筋も絶うり
ろれハ家ゝく一抱おゝぬひもうぬ新して又お猿
を尋出るかくまうて是とさ伝して隠ま所る
迎とうゝ高もちまいて訪ひ人ぬハ敗うゝ
ちゝや古荒の間とゝく荒の戸をとりとあ
さゝりれまとも更より人まとゝ命うちる間二階
ゝく二ゝりくうと高せゝハ梅ハ二階へ隠まゝ
ものゝ古荒の戸を間ようゝて二階へようられハ

長猪ゝ草お礼間ゝ隠まこうゝあゝひゝ
紙ひく猿ハ下へ行ゝとゝ形と渡ゝ屋ゝ懐
分く戸ハ間るさゝて為ハ新ゝ家形家ぐハ
ゝとゝりとゝ西ゝ花ゝ家礼方へゝとゝれハあ
ゝ花ゝくゝ侵ゝくゝと家理ゝ新ゝゝと指迎武本
ゝひゝゝくいろひられハ猿ゝ形ゝゝゝ入ゝて
家猿ゝゝ家ゝゝあるゝ秘術とゝくゝくゝ
ゝゝ出ゝゝゝ猿ハゝゝゝゝ迎押入
ゝゝ今方下ゝとゝうられゝつゝゝく猿ゝ浅
ゝ猪ゝくゝゝ間とゝ間ゝゝハ家ゝ猿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

脊こるうちに次第に肥え痩せて服元皖中なる
曩根通り長崎へ出張致候て帯び所乃
参るものにて仮初の濃ちしきるものとみて社員
も皆な賢母の勇敢極く悪業内にて内人
あるべし初雅なる人隆家に石牡丹を
もてなす七旬斗の老翁なる接待用令なるの宮
乃切に掛者の法言乃く同じ事なるうに
ちに掛り教中よりは別に変なる
なる浪花のものもちひ知れぬ腫何事
対と去る事にてなされるものなるべし

極く悪元浪商部く笑て大きふ吸ひ掛一回無後
浪部とりてふ山事うよ事しいとのとハ変ある
ちうに別にうせ事ちうるに新出ておるうよ
痛と掛へ掛ひれと中ち出頭痛ありまし
ろいのうの仕方く変害腫ひて掛和
とこいうち風浪ひりに痛ひりにまいと癒て
腫ろ側へちう書く頭と打で懐中ち対ちう
おしどこう知らぬが宮へなうちどうてできると同
八金得いこる私ら仕事こと掛ち者有位ち
ろまこハ是ちこ三里へ対と残ちとまとに引下て

[illegible]
[illegible]
[illegible]